

優先地域の特定（詳細プロセス）

1. 優先地域（プライオリティロケーション）の考え方と用語の定義

当社グループでは、TNFD 提言が推奨する評価プロセスに基づき、自然関連の評価対象となるロケーションの用語を以下のように定義しています。

- ・ 要注意地域（センシティブロケーション）：組織の直接操業（および可能な範囲で上流・下流のバリューチェーン）で資産や活動がある地域のうち、生態学的に影響を受けやすい（センシティブ）と考えられる地域の自然と接点があるもの地域。
- ・ 重要地域（マテリアルロケーション）：組織が、自然関連の依存・インパクト、リスク・機会が重要であると特定した場所（例：生産量の多い拠点、典型的製造プロセスであり、LEAP 実施結果が他拠点にも横展開できる拠点）
- ・ 優先地域（プライオリティロケーション）：上記の「要注意地域」「重要地域」のいずれか、またはその双方に該当する地域全体の総称。

当社グループでは、これら「優先地域」に該当する候補（全 31 拠点）をスクリーニングしました。その上で、LEAP アプローチの次ステップである詳細評価（Evaluate フェーズ）へ速やかに移行するため、要注意地域の要件と重要地域の要件が重複する部分を、当社グループが最も優先して取り組むべき「最優先拠点」として定義しました。

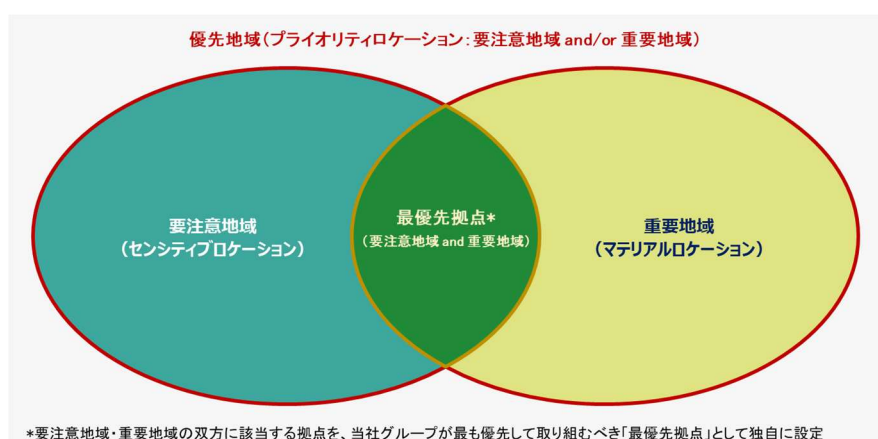


図 優先地域と最優先拠点の定義

2. 分析手法と評価対象(GIS による空間分析)

本評価では、当社グループの産拠点計 31 拠点(国内 15 拠点※、海外 16 拠点)の位置情報(緯度・経度)

を地理情報システム(GIS)上にマッピングしました。各拠点の中心点から「半径 0.5km(500m)圏内」のバッファエリアを評価対象範囲として設定し、各種の国際的な自然・生物多様性データベースのメッシュデータと重ね合わせ、各基準のリスクスコアを客観的に 5 段階(数字が大きいほどリスクが高い)で算出しています。

※2025 年 6 月に新たにグループへ参画した Nitterra Materials については、順次評価を進めていきます。

3. TNFD が示す 4 つの観点に基づく評価指標とデータソース

要注意地域を客観的かつ科学的に判別するため、TNFD 提言で示される 4 つの観点に沿って、以下の通り評価指標およびデータソースを選定し、評価基準を設定しました。

4 つの観点	指標名	指標の意味と評価基準	使用した外部データベース
生物多様性の重要性	保護地域 (WDPA) ・生物多様性重要地域 (KBA) との重複	法的保護区や国際条約 (ラムサール、世界遺産) 指定地域、OECM 等との重複・近接度を評価。重要度や近接距離に基づき、スコア 1~5 で判定。	IBAT (Integrated Biodiversity Assessment Tool)
	希少種・固有種の分布 (STAR 指標)	IUCN レッドリストに基づく絶滅危惧種・固有種の生息割合を算出。現地での脅威軽減活動が世界の絶滅リスク軽減に寄与する可能性を定量化し、スコア 1~5 で判定。	IBAT
生態系の十全性	生態系の健全度 (BII)	人間の攪乱を最低限しか受けていない基準状態と比較し、現在の種の残存度合い (%) を算出。数値が高い (自然の劣化が進む) ほど高リスクとし、スコア 1~5 で判定。	Newbold et al. (2016)
	過去 20 年間の樹木被覆の減少率 (TCL)	過去 20 年間における拠点周辺 of 樹木被覆の減少面積の割合を算出。値が高い (生態系の劣化傾向が大きい) ほど高リスクとし、スコア 1~5 で判定。	Global Forest Watch
生態系サービス供給の重要性	先住民族・地域コミュニティの権利主張エリアとの近接度	先住民族や地域コミュニティが集団的に所有・使用している土地等との重複・近接度を評価。半径 500m 圏内の近接を最高リスク (スコア 5) として、スコア 1~5 で判定。	LandMark
水の物理的リスク	流域の水需給のひっ迫度 (水ストレス) 、	流域の水供給量 (利用可能量) に対する総取水量の割合を算出。需給のひっ迫度を定量化し、40%以上を「High(4)」、80%以上を「Extremely High(5)」として、スコア 1~5 で判定。	WRI Aqueduct
	水質汚濁	流域の水質が淡水生物や人間に与える悪影響 (BOD、電気伝導度、窒素量等) を評価。汚濁の度合いに基づき、スコア 1~5 で判定。	WRF (WWF)
	洪水リスク	再現期間 100 年の気候変動下における想定浸水深 (m) を算出。0.5m 未満から 2m 以上までの浸水危険度に基づき、スコア 1~5 で判定。	洪水リスクファインダー (MS&AD)

4. 特定した「要注意地域」

4つの観点	スコア4以上 該当拠点数	自然観点での分析・評価見解（傾向とインサイト）
生物多様性の重要性	1 拠点	法的に厳格な制限区域内に立地する拠点は無いものの、ブラジルの拠点が、希少種の分布を反映する STAR 指標においてスコア4の高リスクに該当しました。
生態系の十全性	8 拠点	これらは「手つかずの自然環境に近接しており、環境の維持が求められる拠点」と、「過去20年で周辺の森林減少が進み、自然の劣化が懸念される拠点」がありました。
生態系サービス供給の重要性	1 拠点	メキシコの1拠点が、政府承認の地域コミュニティが権利を有する土地に近接していることが判明しました。
水の物理的リスク	15 拠点	アジア（特にタイ・インド・中国）、中南米、南アフリカなどの拠点は、非常に高い水ストレス（需給ひっ迫）や水質汚濁リスクに晒されていることが分かりました。また、日本、北米などの拠点において、洪水リスクが高い（想定浸水深1m以上）可能性が示唆されました。

※1つの拠点が複数の異なるリスク指標で「スコア4以上」に重複して該当するケースがあるため、指標ごとの該当拠点数の単純合計は全体の要注意拠点数とは一致しません。

5. 事業重要度との重ね合わせによる「最優先拠点」の特定結果

自然関連の定量リスクスコアにおいて「要注意（スコア4以上）」と判定された拠点に対し、下記の重要地域（マテリアルロケーション）の要件を重ね合わせました。

- ・事業の継続性・生産重要度：グローバルにおけるスパークプラグなどの「主力製造拠点」であるか。
- ・プロセスにおける環境負荷（主に水利用量）：製品製造において、多量の水資源を消費する「メッキ工程」などがあるか。

その結果、以下の6拠点を最優先で取り組むべき「最優先拠点」として特定しました。

拠点	国	特定理由
(株)日特スパークテックWKSさつま工場	日本	当社グループにおけるプラグ生産のコアを担う主力拠点（事業マテリアリティ高）。生態系の十全性（BIIスコア4）が高く自然に恵まれたエリアに立地。現地の想定浸水深が1.47mと洪水リスクも高い。
Nitterra ブラジル（有）	ブラジル	南米地域のプラグ主力生産拠点（事業マテリアリティ高）。STAR指標（種の絶滅リスク・スコア4）および生態系の十全性（BIIスコア4）の両方が高い。流域の水質汚染（スコア5）という深刻な物理リスクも重なる。
サイアム Nitterra（株） Nitterra タイ（株） Nitterra アジア（株）	タイ	製品の製造工程（メッキ等）において、多量の水資源を消費する事業特性を持つ拠点群（事業マテリアリティ高）。一方で、立地地域は流域の水需給が極めて緊迫している（水ストレススコア5）。
Nitterra インドネシア（株）	インドネシア	メッキ工程を有し水資源への依存・負荷が大きい（事業マテリアリティ高）。立地地域は流域の水需給が緊迫している（水ストレススコア4）。

※最優先拠点以外の要注意拠点への個別アプローチについて

今回の経営マテリアリティ評価によって「最優先地域」の 6 拠点からは外れたものの、特定の自然指標で高スコアとなった拠点（例：地域コミュニティ近接の Niterra North America Reynosa 工場、水ストレス・水質のスコアが極めて高い Niterra インドや Niterra 南アフリカ等）についても、全社リスク管理から排除するものではありません。これらについては、人権や環境コンプライアンス等の観点から、個別に状況把握、課題整理、対応を進めていきます。